

吉崎海岸自然共生サイト調査事業報告書

NPO法人四日市ウミガメ保存会

自然共生サイトに認定された吉崎海岸の自然環境を維持していくため、自然環境や生物の調査などを行った結果を報告する。

調査にあたり、ハチの調査については下田達也氏、バッタの調査については渡辺直人氏に協力を依頼した。なお、キノコの調査について、計画段階では谷口雅仁氏に依頼予定であったが亡くなられたため、調査を下田達也氏に依頼、発見できた場合の同定作業を三輪秀子氏に依頼することに変更となった。

○調査の概要

今回の調査事業では絶滅危惧種に指定されている希少な動植物が、自然共生サイトに認定されたときと変わらず生息生育しているか確認した。吉崎海岸で見ることができたものを生息生育していると判断することとした。その結果、ハマニガナ、シロチドリ、ヤマトマダラバッタを見つけることができた。

○調査背景と目的

今回の調査場所である吉崎海岸は、2023年に環境省より自然共生サイトに認定された場所である。ここは2009年1月より毎月第1日曜日に楠地区まちづくり検討委員会が委託を受け、海岸清掃と外来植物駆除を行っている。NPO法人四日市ウミガメ保存会は協同して海岸清掃と外来植物駆除を行っており、主に清掃後の自然に関する勉強会の講師探しや自然共生サイトの認定および継続に向けた活動の担当をしている。そこで吉崎海岸自然共生サイト調査事業では、自然共生サイトとして吉崎海岸が今後も認定され続けるために、動植物の生息生育の状況を確認するとともに希少種の変遷を確認することを目的としている。

○調査日時

毎月第1日曜日の海岸清掃時における全体の変化の調査については記述しない。

末尾に◎がついている日は調査協力を依頼した日となっている。

2024/5/5 シロチドリ調査(営巣状況調査)

2024/6/2 シロチドリ調査(営巣状況調査)、ハマニガナ開花調査

2024/7/7 キアシハナダカバチモドキ調査◎

2024/7/22 キアシハナダカバチモドキ調査◎

2024/8/18 シロチドリ調査(環境確認)

2024/9/16 バッタ調査(吉崎海岸北側)◎

2024/9/20 バッタ調査(吉崎海岸南側)◎

2024/9/23 アバタケシボウズタケ調査、環境整備◎

2024/10/6 アバタケシボウズタケ調査、環境整備

2024/11/3 アバタケシボウズタケ調査、環境整備◎

○調査結果

・シロチドリについて

5月の海岸清掃時に木道近くにて、シロチドリがつかいでいる様子が見られたことから、付近に海岸清掃参加者には近寄らないように呼びかけ、楠地区まちづくり検討委委員会には木道の両側について草刈りを夏までしないよう協力を依頼した。巣に人が近づくと営巣を放棄するので近づいていないため、実際に営巣が行われていたのかの確認はできていない。なお、営巣時期を過ぎたころの様子は写真のとおりである。付近は草で囲われているが、一部のみ砂地となっているので営巣していた可能性は十分考えられる。



撮影日:2024/8/18

また、6月の海岸清掃時に砂浜にてシロチドリの可能性のある卵が確認された。野鳥の会に確認をしたが、卵だけで判断は難しく、親鳥が卵のところにいなければシロチドリと断定することはできないが可能性はあるとのことだった。しかし、海岸清掃参加者が通る場所であり、シロチドリであったとしても営巣放棄は避けられない状況だと考える。一方で当日の参加者には実際の営巣環境や砂に擬態した卵の模様を見てもらうことができ、なぜシロチドリが減ってきているのかを間近で感じてもらう機会となった。



撮影日:2024/6/2



撮影日:2024/6/2

↑縦に枝をさして囲んでいるところで卵が確認された。

・バッタについて

準絶滅危惧種に指定されているヤマトマダラバッタを中心に調査を行った。2022年の調査より吉崎海岸には多く生息していることがわかっていたが、海岸全体における生息状況についてわかっていなかったため熱中症対策のため2日間にかけて海岸の南北全体の調査を行った。結果としては、ヤマトマダラバッタは吉崎海岸全体に生息しており、南北の位置による差は見られなかった。一方で東西方向には差があり、草地にはクルマバッタモドキが多く、砂地にはヤマトマダラバッタが多く、2種がすみ分けている様子が見られた。その他昆虫も観察することができた。



撮影日:2024/9/16



ヤマトマダラバッタ



クルマバッタモドキ

・アバタケシボウズタケについて

元々、谷口雅仁氏が以前に吉崎海岸で調査をしたことがあり、アバタケシボウズタケが発生したことがあるとの情報を受け、2019年に調査を下田達也氏が行い再度発見に至っている。菌類であるため、砂の中で発生しており見つけることは難しいが、10月から11月ごろに子実体、いわゆるキノコの状態になるため砂から出てくることもあるのでその時期に調査した。発生しやすい条件として砂が移動しない状態であること、コウボウムギが近くに生えていることがあげられていた。そのため、ノイバラによって砂が動きにくい状態が望ましいがあまり広がると海岸でのケガにもつながるため、環境整備として適度な刈り取りを行った。2024年度は発見できていないが、環境整備は続けていく。



撮影日:2024/12/1



刈り取ったノイバラ

・植物について

毎月外来植物駆除を行っていることからそれとは別に活動はしていない。しかし外来植物については調査を行った。特に注意したのはハマゴウに寄生するアメリカネナシカズラである。すぐに枯れて種を落として広がるため、種を落とす前の段階でハマゴウごと刈り取り除去できるよう、海岸清掃開始前に海岸を見回ってアメリカネナシカズラを見つけた場合には場所を外来植物駆除グループに伝えてその日のうちに駆除するようにした。



撮影日:2024/9/20

今までに発見されていなかったマルバツユクサが確認された。これは外来植物ではないが、すぐに地面を覆いつくすために果樹園などで雑草として嫌がられている植物であるため駆除をした。また、外来植物ではオオフタムグラが確認され駆除をした。いずれも流木撤去のために重機が海岸に入った時期のあとに発見されており、場所も重機の通り道であったことから重機にくっついてきたものと考えられる。いずれも毎月海岸清掃とともに外来植物駆除を行っているために対処できており問題はなかった。



撮影日:2024/10/6 マルバツユクサ



撮影日:2024/9/23 オオフタバムグラ

○調査結果

調査の結果、ハマニガナ、シロチドリ、ヤマトマダラバッタを吉崎海岸で確認できた。その他希少種が生息生育している可能性も見つかった。

○今後に向けて

三重県総合博物館の学芸員より、吉崎海岸を調査している人がいないために見つかっていないだけで、もっと珍しい昆虫が見つかるもおおしくない環境は整っているという言葉もあった。そこで海浜性の昆虫は主に夜行性であることから、夜間調査を行っていきたいと考えている。また、細かい流木の間を好んですむ昆虫も多くおり、流木の取り扱いについて考えていく必要がある。

毎月行っている海岸清掃とともに、外来植物駆除を行ってきた成果として、ハマニガナの分布が広がっていることが大きい。開花時期も長いことから吉崎海岸では手軽に見られる花の一種になっている。

ただし希少種は乱獲をする人や標本にしてコレクションする人もいるため、このような環境があることを広く周知するのは危険な側面もあることを忘れてはならない。

活動の中で一部の方から、シロチドリが営巣活動を行っている海岸が減ってきている中、吉崎海岸は貴重な場所であるので、営巣時期に多くのボランティアが押し寄せる今の状況

を良く思わないという意見をいただいた。一方で、多くのボランティアが来てくれることによって除草作業などができていて、草地にならず砂地を維持できている面もある。同じ三重県内では白塚海岸で除草作業が追い付かないという情報も聞いている。すべての方が納得することは難しいが、ひとりでも多くの方が吉崎海岸に魅力を感じてもらえるよう活動を継続するために、希少種の動向について調査を続けていきたい。